

第103回全国算数・数学教育研究（埼玉）大会参加報告

柏中央高等学校 石田 俊介

発表の日時

令和3年8月22日（日）14:40～15:20

指導助言者

埼玉大学 教育学部 准教授

西澤由輔 先生

茨城県立太田第一高等学校 教頭

小出岳夫 先生

発表の様子

ズームによるオンライン発表。参加者は、司会や指導助言、発表の先生方の他に大学生などを含めて10名ほどである。発表のテーマは「令和3年度大学入学共通テスト（数学）のアンケート調査結果について」であり、高校の部、第6分科会の午後部、3番手として発表した。発表時間は20分のため、共通テストアンケートの生徒結果と教科主任回答のうち、前者のみ、概要に絞って発表した。

講評の様子

西澤先生より

- これだけたくさんのアンケート結果をまとめるだけでも大変だと思う。
- アンケートの質問内容は委員会の中で決めているのか？毎年同じ質問なのか？
→ 毎年同じ質問をすることでみえてくる傾向の変化もあることを意識しつつ、

委員会の中で吟味して質問項目を決定している。

- この調査結果が千葉県の高校で共有された後、この調査結果が各高校でどのように活かされたかまで追えると、より意義が増すのではないか。

小出先生より

- 出版社や予備校の共通テストの講評ではIAでは「図形と計量」の分野が取り組みにくく、受験生は苦勞したという内容だったが、今回の千葉の調査結果では他の分野（「図形の性質」、「場合の数と確率」）が苦手という結果だったのがおもしろい。千葉県の「図形と計量」の教え方が優れているのか。
- 生徒や教科主任の先生から直にとった声から起こした調査結果なので、とても貴重なデータである。
- （参加者のなかに入試センターの職員がいたことを踏まえ）思考力を問うことが目的の一つだが、今回の共通テストの問題を見ても、思考力を問えているかは疑問が残る。時間内に処理するスピードが点数に結びつく従来の形と大きく変わらないような気もする。ぜひ大学入試センターの関係者の皆さんには、その点を考えていただきたい。